

きこえ・ことば

2024年2月
小学部自立活動担当

保護者のみなさま、いつも発音の宿題のチェックや、お子さんとの取り組みなど、ご協力くださりありがとうございます。3学期の「きこえ・ことば」をお届けします。お子さんと一緒に読みながら話し合っていたいただければありがたいです。

かけ算九九の唱え方を覚えることは・・・

2年生の2学期に学習するかけ算。かけられる数の段ごとに、かけ算九九の唱え方を学んでいきます。

「ににんがし」「さぶろくじゅうはち」「はっばろくじゅうし」など、特徴的な唱え方がいくつもあったり、四の段の「し」、七の段の「しち」が聴き取りにくかったり、唱えにくかったりするので、81種の唱え方を身につけるのには、かなり時間がかかります。では、2年生で繰り返し唱える練習をしたり、友達や教師やご家族が唱えている音声を聴いたりすることは、3年生以降の学習に、どれくらい役立っているのでしょうか。

4年生以上の発音の授業の際に、「かけ算九九の唱え方」について、次の順に学習しました。(昨年度と今年度の2回実施)

- ① 一の段から九の段まで順番に唱え、唱え方をひらがなで書く。
- ② かけ算やわり算の計算のときに、かけ算九九の唱え方を使っているのかどうか確認する。(実際に声に出して筆算を順番に行いながら確認しました。)
- ③ かけ算やわり算の計算を速く正確に行うためには、かけ算九九の唱え方は役に立っているかどうか考える。(実際に声に出して筆算を順番に行いながら確認しました。)

子どもたちに、1つずつ確かめさせると、「計算のときにかけ算九九の唱え方を使っている」と答えた子どもは、進級し、たくさんのかげ算・わり算の問題をこなすにつれ、「かけ算九九の唱え方を使っている時と使っていない時がある」ことに気づきます。そして、6年生にもなると、かけ算九九の唱え方を使わなくても、答えを速く正確に出せるようになっていく場合が多いようです。九九表を見たり書いたりして覚える方法を使っている子どももいますが、かけ算九九の唱え方を覚えることは、計算を速く正しく行うために、役立っていると考えている子どもが多いことが分かりました。子どもたちの回答から、かけ算九九の唱え方を練習するときには、九九カードや九九表等、(最近はアプリもあるようですが) 視覚的な手がかりを活用しながら、聴覚を最大限に活用していくことの大切さを改めて学んだ実践でした。

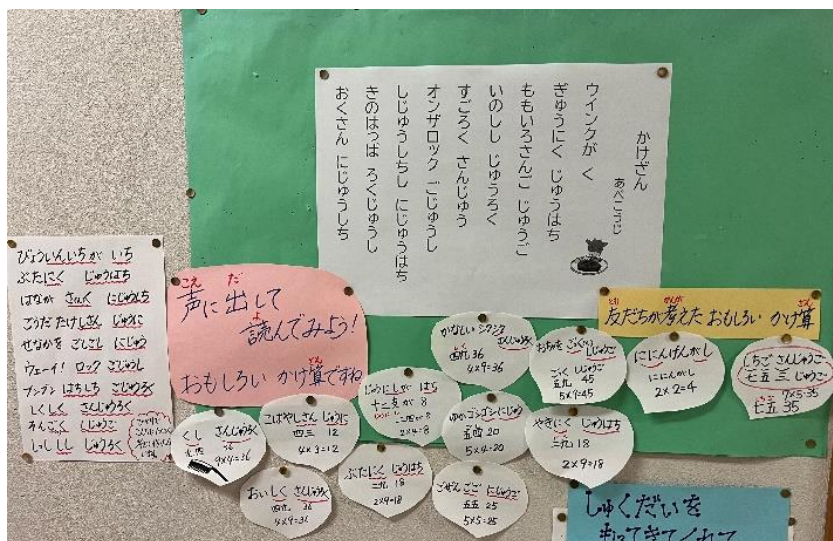


「だじゃれ作り」でことば遊び

かけざん

あべこうじ

ウインクが く
ぎゅうにく じゅうはち
ももいろさんご じゅうご
いのしし じゅうろく
すごろく さんじゅう
オンザロック ごじゅうし
しじゅうしちし にじゅうはち
きのはっぱ ろくじゅうし
おくさん にじゅうしち



かつて勤務していた学校での、先輩教員が作った詩「かけざん」。かけ算九九の唱え方をひと工夫すると、このようなだじゃれができることを、子どもたちに伝えたくて、この詩を教材に選びました。はじめは、九九の中のだじゃれに気づかなかった子どもたちも、ヒントを伝えることにより、何の段の九九なのかが分かってきました。だじゃれの面白さがわかってきたところで、かけ算九九の唱え方を使っただじゃれを考える宿題を課したところ、ユニークな作品ができあがりしました。ここで一部を紹介いたします。

やきにく じゅうはち (二九一八)

がたにく じゅうはち (二九一八)

おいしく さんじゅうろく (四九三六)

おちゃをごっく(ん) しじゅうご (五九四五)

しちごさん じゅうご (七五三五)

ウェーイ! ロック ごじゅうし (六九五四)

冬休みに、だじゃれ作りの宿題を高学年児童に出したところ、力作、秀作が集まりました。ご協力いただきました、保護者のみなさまに改めて感謝いたします。発音指導室前に作品を掲示したところ、低学年の子どもたちも楽しそうな声で音読していました。声に出してだじゃれを読むと、心が弾み笑顔になります。これからも、「だじゃれ作り」等、ことば遊びを通して、子どもたち自身が日本語の面白さを体感できるよう工夫していきたいです。

漢字を書いたら
いいかんじ



朝食抜いたら
チョーショック!